

平成12年度第3回幹事会報告

2000年10月5日
於：国立京都病院

[報告・協議事項]

事務局：

- (1)入会 (9/25) 京都民医連第二中央病院、
退会 (8/18) 行岡保健衛生学園

(今年度計4機関)

(2)事務局関係業務委託の打ち合せ(8/10 国立京都) 会員宛名ラベルの管理と会員への文書や案内の発送業務委託についてサンメディアの担当者(松下、湯浅両氏)と事務局の山崎、松本、小田中との間で交渉した。この時、L-palの新材料体系についても病図協として要望を出した。第3回幹事会に再検討した内容を提案してもらうことになった。

(3)日本医学図書館協会第7回医学図書館研究会・継続教育コース開催案内(8/10) 9月27-29日に北海道医療大学総合図書館で開催された当研究会案内状は5枚にわたること、便乗する発送物がなかったこと、開催地が遠方であること、これまで当研究会への参加はなかったことなどから、会員への案内は省いた。

(4)著作権プロジェクトチーム会議(8/30 国立京都) 山室真知子、首藤佳子、小田中徹也が出席。シンポジストの最終確認について打ち合せ。

(5)共同事業：病院図書館員認定委員会会議 8月25日、星ヶ丘厚生年金病院にて病図協側委員が会合。9月9日、国立京都病院にて病図協と病図研の委員が会合。

(6)日本病院会全国図書館研究会の後援名義の借用依頼(9/14) 10月20-21日に東京で開催される同研究会の開催にあたって、今年度も当協議会に後援名義の借用依頼があったので、例年どおり受諾した。

(7)創立25周年記念フォーラムの案内状発送(9/18) 7月末から9月中旬にかけ、講師交渉、内容打ち合せ、演題等の確認、会場舞台担当者

との打ち合せ、ポスター作成などの作業を経て、会員と内外の関係者に案内を発送。会計中間報告参照。サンメディアに発送業務委託。

(8)「現行医学雑誌所在目録2000年版」発行(10/1)

(9)平成12年度近畿地区医学図書館協議会・日本薬学図書館協議会近畿・中国・四国地区協議会シンポジウムの開催案内(10/2)

研修部：

第7回勉強会(7/27 淀川キリスト教病院) テーマ：図書の新修、参加19名。

第8回勉強会(8/10 阪和記念会館) テーマ：病院図書室”初めの第1歩”、参加8名。

第9回勉強会(8/16 済生会兵庫東病院) テーマ：身近なパソコン利用、参加12名。

計3回の勉強会について報告された。

今年度は、10月の創立25周年記念行事を定例研修会も兼ねて開催することでもあり、小規模な勉強会を多く開催した。

会誌編集部：

会誌20巻3号の企画内容では、「看護部と図書館員のかかわり」をテーマに特集記事を組むことが報告された。また、20巻4号は創立25周年記念フォーラムの内容を記事化するとともに、20周年以来の病図協の「あゆみ」を記事にまとめ、創立25周年記念号として発行することになった。さらに、21巻1号についても企画案が出され、概ね了承された。また、編集体制についても若干の補充があったことが報告された。

医学中央雑誌刊行会より、掲載誌名変更に関する登録報告があり、次のようになった。

掲載誌名：病院図書館、略名：病図書館、掲載誌コード：W3886、ISSN：1345-6857。

なお、東海地区の豪雨のため、印刷所が水害に遭い、床上1mの浸水があったとのことである。

統計調査部：

今年度は集計作業の大半を外注によって、処理した。今年中に発行予定。

目録編集部：

今年度の「現行雑誌所在目録 1999」は、例年どおり秋の11月に発行・配布されることが報告された。(発行配布済み)

[協議・決定事項]

(1) 創立25周年記念フォーラムの開催準備と当日運営

- 役割分担 総司会：林伴子、カメラ：会誌編集部、録音：会誌編集部、受付：研修部+アルバイト1名、接待・案内：小田中徹也・松本純子、スライド：濱口恵子、マイク：研修部
- 功労者への感謝状贈呈 対象者：山室真知子、首藤佳子、山崎捷子、重富久代、松本純子の5名
- 記念グッズの作成 布製手提げバック（イラスト：岸田郁葉）200個作成
- 会誌記事化 20巻4号で特集記事化
- 業者展示 サンメディア、JST科学技術振興事業団、医学中央雑誌刊行会が出品予定。
- 懇親会 司会：森川治美、来賓挨拶若干名、生演奏：京都南病院軽音楽部、等。
- 参加者の見通し

(2) 「第7回共同事業運営会議報告」と今後の共同事業への取り組み

今年度の世話人がまとめた当報告書については、病図協の会誌にはこれを「報告書」として掲載せず、次のような経過報告だけを掲載することになった。

第3回幹事会において「第7回共同事業運営会議報告書」が事務局長より紹介され、経過説明があった。その結果、不穏当な表現を含んだ内容および関係者の事情説明やこの報告書に対するその後の病図研内の動向を基に判断して、正当な会議報告書とは認められない。したがって、次回の共同事業運営会議においてこの報告書に対する病図研側の考えを聞き、納得のいく報告書を再作成してもらおう。それに同意を得られない場合は、両会の共同事業については再考する。との結論になった。

(3) (株)サンメディアの新「L-palシステム」について

会議では同社担当者を招き、「L-Palシステム」の新料金体系について説明を受けた。この中で、同システムについてはサービス開始時の経過からも、新料金体系について当協議会会員へは十分に説明すべきであった、今後は十分な説明に配慮したいとの釈明があった。当協議会としては、新料金体系に理解を示すものの会員間に格差がないように運用して欲しい旨要望した。